



愚かであるからこそ

ひとさじの会 代表 高瀬顕功



ひとさじの会も今年で16年目を迎えます。この3月までに弊会の中心事業である配食、夜回り活動は350回を数えました。回を重ねる中で、試行錯誤を繰り返し、食事の内容だけでなく、夜回りのコースや配付物

なども少しずつ変わっていきました。

思い返せば、16年前の貧困問題といえば、住む場所がない、食べる物がなかったといった、その日の生活に困っている方々のことが中心でした。それから次第に子どもの貧困に代表されるような、見えにくい貧困状態にある人々のことにも目が向けられるようになりました。それにあわせて多様な支援が多くの団体によってなされてきました。また、多くの方が、ボランティアやサポーターとしてそれらの活動を支援してくださいました。

しかし、貧困問題は未だ解消されていません。むしろ、コロナ禍によって、厳しい立場に置かれていた人たちはより困難な状況にさらされること

おにぎり通信

No. 09

ひとさじの会ニュースレター 2024

2024年6月12日

発行：社会慈業委員会（ひとさじの会）

〒111-0022 台東区清川 1-8-11 光照院内

hitosajinokai@gmail.com

<http://hitosaji.jp>

目次

- 1 頁 愚かであるからこそ
- 2 頁 令和5年度の活動報告
- 3 頁 九州支部活動報告
- 4 頁 滋賀支部活動報告・令和6年度活動予定
りんりんふえす vol.11 開催レポート
- 6 頁 ひとさじの会発足15周年
- 7 頁 寄附御礼
- 8 頁 決算報告 物資御礼

になりました。子ども食堂の数は年々増え続け、わたしたちの活動配食数も昨年、一昨年と比べて増加傾向にあります。その一方で、大手企業が過去最高益を更新した、日経平均株価が史上最高値を更新した、といった経済ニュースを目にします。こうしたことから、経済的豊かさに偏りが生じ、格差が広がっている印象を受けます。

格差は社会の断絶を生みだしやすいものです。他者と交わる機会を失うと、想像力も失われます。「いまだけ」「ここだけ」「自分だけ」を中心に物事を考えると、よりいっそう他者が見えなくなることでしょう。私たちはさほど賢くはありません。接する人の範囲でしか物事を考えることができない、想像力が働かないこともしばしばです。

愚かであるからこそ、困難を抱えた方々のところへ足を運び、その声を聞かせていただくことで、私たちができることを考え、これからの活動に活かしてまいりたいと思っています。

本号には、各支部での活動の様子や、事務局長の15年分の想いもつづられています。ぜひ一読いただき、私たちのこれからの活動へのご理解ご協力を賜れましたら幸いです。

合掌

○令和5年度の活動報告

ひとさじの会事務局長 吉水岳彦

○炊き出し・夜回り支縁

- ・ 期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日
- ・ 開催日数：26回（原則として毎月第一・第三月曜日）
- ・ 配食数（お弁当）：5,034個
- ・ マスク：約25,170枚（1人につき5枚ずつ配布）
- ・ 寝袋配布数：81個 他団体に45個寄附
- ・ 公衆浴場共通入浴券の数：1,400枚
7月に3枚ずつ 12月は3枚ずつ
※他の活動日にも求めに応じて配布

昨年度と同じく、令和5年度の炊き出し夜回りでも、平均的に毎回200食以上の配食を行うことになりました。数年前までは200食を越えることなどなかったことから、近年、配食数が増加したことがわかります。その理由を考えるべく、予告している活動日以外の月曜日の同時刻に、夜回りのコースを歩いてみたところ、路上に寝ている人の数は配食数の半数以下であることが確認されました。また、弊会に電話やメールで配食に関する問い合わせをして来

る人々の生活の様子を聞くと、ほとんどが住居のある、もしくはネットカフェに寝泊まりしていることがわかりました。そのことから、配食数増加の理由の一端が、路上生活ではないが、困窮しているさまざまな生活様態の方が増加し、食糧を求めて弊会の配食に集まるようになったことが想定されます。多い日には、配食数が250食を超える日もあり、時折、対応に困ることもあります。いまのところは配食可能な数ですが、今後、路上生活者以外からの食糧を求められることが著しく増大した場合、あらためて、その対応について話し合う必要があると思います。

○葬送支縁

- ・ 納骨供養2件（6柱） ・ 葬儀5件
- ・ 法事2件 ・ 棚経1件 ・ 墓参4件

令和5年度は、コロナ禍で路上に暮らす方々のための大規模な夏祭りは行えなかったものの、新宿でも山谷でも、追悼法要が行われ、コロナ禍で喪った大切な人のいのちに思いを馳せるとともに、いまのつながりを再確認する時間を設ける団体が多かったと感じています。なかには、身寄りがない方々を受け入れている施設から要請があり、施設スタッフと利用者の双方を集めてのお別れ会を行うこともありました。コロナウイルスに感染した方は、救急搬送されたあと、そのまま火葬されて、お別れができないことも多くあります。施設のスタッフや利用者さんたちのなかには、直接お別れが言えなかった悔やみや、あらためて亡き人を悼みながら、感謝を捧げたいという方もおられました。そのように亡き大切な人を想う時間は、今の自分があるために大切な人たちとのつながりを実感させてくれるものであり、遺された者がいまを生きていく上で大切なものです。

年度末の3月のお彼岸には、光照院にお墓を設けている3つの団体が集まってお墓参りと納骨を行いました。各団体、それぞれに感染症には気をつけつつも、人数制限なく、みんなでの



配食の様子

参拝でした。わいわいとお墓にやって来られる親しい人たちをご覧になる亡き方々も、さぞ嬉しかったことと思います。

新年度もご縁の団体のみなさまとともに、亡き大切な人とのつながりを感じていただけるような場をつむいでまいります。

○施米支縁

- ・ひとさじの会が受け取った施米：約 3,546 k g
- ・ひとさじの会が他に届けた施米：約 4,300 k g

令和 5 年度も、全国の浄土宗寺院をはじめ、この活動を理解して応援くださる全国の個人や団体、諸宗派の寺院様や檀信徒様より浄米が届けられました。また、インスタントラーメンやさまざまなレトルト食品、野菜類等も届けられ、広く困窮世帯に配布させていただきました。届け先は、山谷のホスピス「きぼうのいえ」や同地区の母子支援施設、光照院こども極楽堂で活動する、「あむりた」や「台東区の子育てを支え合うネットワーク」、「在日ベトナム仏教信者会」等、主に山谷地域に縁のある団体や個人です。ちなみに今年度は、困窮する方々に届けたお米の量は、昨年度よりも多くなっており、経済的に不安定な人たちが増大していることを感じさせられます。物価高騰等の影響もあり、今後も生活に困窮する方々が増えることが予想されます。経済的に厳しい状況にある日本における食のご支縁は誠に有難く、この場をお借りして心から感謝を申し上げます。

○九州支部の活動報告

ひとさじの会九州支部長 今井英之

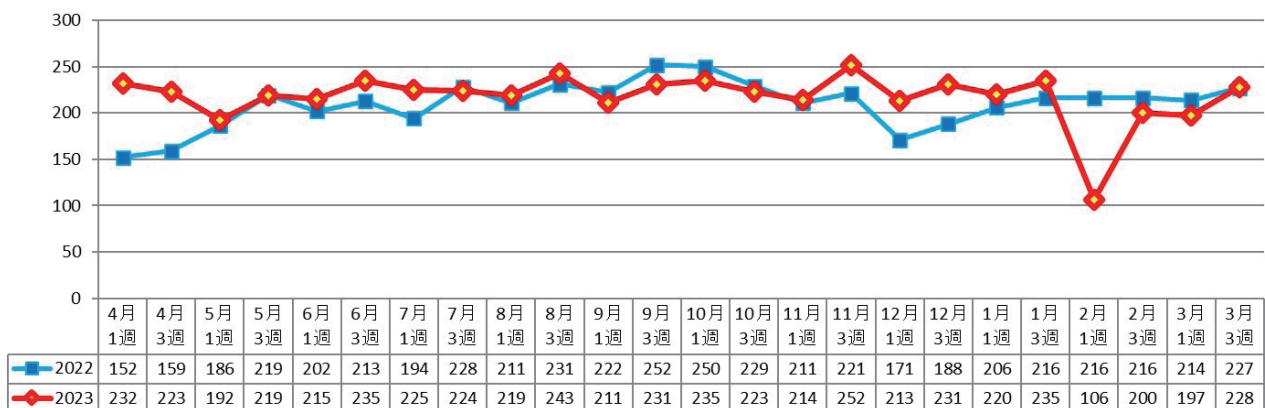
10月11・12日に秋彼岸の米一升運動を行いました。11日はお米の収集。彼岸中に3ヶ寺で集めたお米を安養寺まで運び、小袋に詰め替える等の作業をしました（阿部・今井英）。

12日は大分市の西新町こども食堂様と中央町自治会様へ、集めたお米の一部をお届けしました。当日は食堂の開催日で、配膳や片付けに加わりました。メニューはプロの料理人による手作りカレー。帰りにはフードパントリーも用意されております。バス停まで歩く母子の、お米とたくさんの食材が入った袋を半分持ちながら、生活や体調、学校の話に耳をかたむけました。停留所に着き、ベンチに座って大きな袋を抱える2人はにこにこ笑っていました。「ありがとう」とお礼を言われて照れてしまったのは、たくさんの方の思いが詰



大分支部活動の様子

夜回り配食数(食)(昨年度比)



まったその袋に、私たちが代表してお礼をもらったからだと思います（秋吉・今井順）。

【総量】 770kg

【配布先】 フードバンクおおいた（県社協）、グリーンコープ、特定非営利活動法人 YNF（災害被災者支援）、大分市中央町自治会・高齢者支援、西新町こども食堂

【参加寺院】 蓮華寺（国東市）、安養寺（大分市）、善光寺（宇佐市）、長昌寺（杵築市）

最後に、今年度は宇佐市善光寺秋吉明緒上人が、ひとさじの会九州支部のメンバーになってくださいました。支部のメンバーや協力寺院の皆様と共に、少しでも困っている方々のお力になれるように精進してまいります。

○滋賀支部活動報告

ひとさじの会滋賀支部長
フードバンクびわ湖理事長
曾田俊弘

令和5年度は、一意専心、滋賀教区浄土宗青年会の「おうみ米一升運動」のサポートと、フードバンクびわ湖の活動に取り組みました。

今年度も滋賀教区のご寺院より6tを超える仏供米のお下がりのお福分けにあずかり、歓喜踊躍し、随喜の涙を流しました。そしてその貴重な浄米をフードパントリーと宅配によって多



滋賀支部活動の様子

くの方々にお福分けさせていただき、たくさんの笑顔に出会い、無上の感激に浸りました。

平成21年度に甲賀米一升運動として産ぶ声を上げた「おうみ米一升運動」はお陰様で**15周年**を迎えることができました。15年前はほとんど認知されていなかったフードドライブを寺院・僧侶の社会貢献活動（社会慈業）として広めていこうというひとさじの会の先駆的な構想を、滋賀県で「米一升運動」という形で具現化することができたことはこの上ない喜びです。さらにありがたいことに、米一升運動の被災地支援として「近江米配布会」というフードパントリーにもいち早く取り組むことができました。フードバンクびわ湖の活動も米一升運動の応用に過ぎず、ひとさじの会なしにはあり得なかったことに改めて気づき、ひとさじの会とのご縁への感謝の念と米一升運動継続の覚悟を新たにしました次第です。

今年度こそは懸案の滋賀支部独自の活動を始めたい所存です。

○令和6年度の活動予定

炊き出し・夜回り支縁は、例年通り、月2回（原則第一・第三月曜日）行います。開催予定日は下記の通りです。

令和6年

4/1、4/15、5/6、5/20、6/3、6/17、7/1、7/22（第4月曜日）、8/5、8/19、9/2、9/16、10/7、10/21、11/4、11/18、12/9（第2月曜日）、12/23（第4月曜日）

令和7年

1/6、1/20、2/3、2/17、3/3、3/24（第4月曜日）

※今年度もボランティアを募集し、多くの人と活動を共にする予定です。基本的には第1と第3の月曜日の活動ですが、お彼岸など、活動場所になっているお寺の行事や山谷の越冬活動と重なる場合には、第2、第4月曜日等に活動日を変更することがあります。

〇りんりんふえす vol.11 開催レポート

ひとさじの会理事 工藤量導

りんりんふえす初の山谷開催！！

路上生活者が生活を立て直すための生業となるビッグイシュー雑誌（販売価格 450 円のうち 230 円が販売者の収入となる）を応援したいという呼びかけで 2011 年に始まった「りんりんふえす」。これまでは梅窓院・祖師堂を会場に行われてきましたが、11 回目の今回は舞台を山谷・玉姫公園に移して、初の野外開催（2024 年 3 月 3 日、台東区芸術文化支援制度の助成による無料コンサート）となりました！

実はりんりんふえすの呼びかけ人でもあった寺尾紗穂さんがホームレス問題に関心を持つようになったのは、学生時代に玉姫公園で出会った坂本さんという元日雇い労働者のおじさんとのご縁によるもの。つまり、りんりんふえすのきっかけといってもよい場所なのです。数年前から企画を進めていたのですが、4 年前のコロナ禍での中止を経て、ようやく実現にこぎつけることができました。ちなみに、玉姫公園は事務局長の自坊である光照院から歩いて 10 分ほどの場所にあります。

当日は晴天にめぐまれ、来場者 750 名を超える大賑わい。音楽ライブは寺尾紗穂さん、三輪二郎さん、池間由布子さんによる穏やかで力強い演奏と歌、お馴染み新人 Hソケリッサ！によ

る肉体労働者たちの身体を駆使したコンテンポラリーダンス、そして日暮れ後には川村亘平斎による幻想的な影絵のパフォーマンスがお客さんを虜にしました。今回の特別企画は路上のおじさんたちがマイクを握るカラオケタイム。優に 90 歳を超えるという、はちまき姿のおじさんの堂々たる謡いぶりで、会場也大いに盛り上がりました。

会場の一角では坂本さんの作品の展示や、これまでのりんりんふえすの写真、また江戸時代から現代までの山谷地域の歴史をまとめた展示も行われていました。座談会の前に、これまでに路上で亡くなられた方々や、度重なる震災や紛争で亡くなられた方々を思い、会場全体でお念仏や黙祷、それぞれの形で祈りを捧げました。

座談会のテーマは「東京を支えてきた街『山谷』。を知っていますか？」。メンバーは主宰者の寺尾紗穂さんのほか、つくろい東京ファンド代表理事の稲葉剛さん、認定 NPO 法人山友会副代表の油井和徳さん、ゲストとして NPO 法人訪問看護ステーションコスモス代表理事の山下眞実子さん、ビッグイシューの販売者さんにも参加をいただき、コーディネーターは当会の事務局長がつとめました。山谷のこれまでの歴史、現在の状況、そして未来はいかにあるべきか、さまざまな角度からトークが白熱しました。山谷は戦後の復興を支えた重要な街であり、実は高齢者だけでなく、生きづらさを抱えた若者も暮らす地域です。病気や高齢者も少なくないこの地域には訪問看護が必要だということで、



2000年にNPO コスモスが立ち上がり、現在も多くの方々の日常生活を支えています。地域が変化する中で孤立する人の住まいや居場所をどう守ってゆくかが今後の課題です。

今回も在日ベトナム仏教・随縁^{ずいえんぜんしつ}禅室の皆さんがベトナム揚げ春巻きとベトナムコーヒーをおふるまいくださり、ほかにもNPO 法人ふるさとの会のフランクフルト、つくろい東京ファンドのロレックスというアフリカ系料理やチャイ、池袋あさやけベーカリーや夜のパン屋さんがパンを販売して、来場された方々のお腹をやさしく満たしました。

野外での開催はすべて初めてのことで、夕方から午後にかけての予想以上の冷え込みへの対策など、不足する面もありましたが、お天気に恵まれ、事故やトラブルもなく、たくさんの方にご来場いただきました。またの開催をぜひ楽しみになさってください！

〇ひとさじの会発足 15 周年

事務局長 吉水岳彦

2009年4月7日、敬慕してやまぬ法然上人のご生誕の日にあわせて発足した「ひとさじの会」も、今年で15周年を迎えます。とはいえ、目の前のおつらい人たちのもとに通い続

けるのみで、その人の苦しみを解決することもできず、誰もが目に見えて理解できるような大きな成果もないままです。彼らを前に、ただひたすら自己の無力と心の弱さ、醜さに気づかせていただくばかりです。

私事で恐縮ですが、2008年に博士論文を執筆しながら新宿の路上生活者支援の現場に通い続け、この会を設立しようと思い至ったのは、「助けなくては！」と思ったからではなく、出会う人たちの多様な在り方に接しながら、生きている人間の実相を教えていただけたことによります。怒りや悲しみ、ズルさ、優しさなどのあらゆる感情も、生まれた場所での暴力や搾取を受けることの恐ろしさも、少し努力したくらいでは、どうにもできない生きる苦しみや無常のつらさも、私は彼らとの出会いに学ばせてもらいました。同時に、人々の苦しみなど、これっぽっちも知らない自分が、偉そうに「救い」を語ることの恥ずかしさ、滑稽さを思い知らされたことでした。

当時、宗教の救いとは何なのか、迷い、悩みながら活動をはじめようとする中、四天王寺の西門の前で行き倒れている病人の口に、ひとさじずつ重湯を運ぶ法然上人の姿に出会いました。ここにいう病人とは、現代を生きる私たちを含む、末世五濁の世に貧困や病に苦しみ、悪見や煩惱に迷い、自らの力では正しい道に進むこと



お配りしていたおにぎり（コロナ感染症前）

も、生きることも難しい、すべての人間のことで。どんなに高級で栄養価の高い果物があっても、動くこともままならぬ病人には、噛むことも消化することも難しいものです。粥をさらに湯でやわらかくして、誰もが飲み込める重湯でなければ、病人たちの喉を通りません。法然上人は、そんな目の前の行き倒れている人の状態をよく見据え、念佛三昧のおもゆをひとさじずつ口に運んだのです。

もちろん、阿弥陀如来様の平等の救いと護念を頂戴できる出世間的な救いを得るお念佛と、路上に横たわる病人が一時的に飢渴を潤すという世間的な救いを得る重湯とでは、質的な相違があります。しかし、本当に自己の力だけでは、どうにもできない現実の苦を前にして、そこで何が必要なのかを徹底的に寄り添って悩み、その人にとっての極善最上の法（重湯・念佛）をお勧めになった法然上人の姿勢は、現代の私たち佛教徒が学ぶべき姿と思えたのです。

そこで、もともと大正大学浄土学の仲間と結成していた為先会という念佛会メンバーと共に発足したのが、浅草山谷、隅田公園、上野駅周辺において路上生活者と向き合い続ける「ひとさじの会」です。この会の発足には、他にも理由はありますが、主たる理由はこの一点です。わたしは彼らが路上生活を選ばざるを得なかった、その人生の背景や苦しみを知りません。彼

らの絶望をすべて受けとめることもできません。何もできないけれど、何もせずにもおれないのです。まさに凡夫そのものですね。しかし、何もわからず、何もできぬ私たちだからこそ、心からの尊重と恭敬の心をもって接し、彼らの気持ちを丁寧に聴かせていただき、その人生の絶望も希望も、大切にうけとめさせていただきたいと願い、この活動を始めたのです。

15年経った今も、この拙い活動を続けることが、誰かの救いになっているのか、何か意味のあることなのか、ただの自己満足ではないか等、まことに悩ましく思います。けれども、そんな拙い歩みながら、ありがたいことに多くの人のご協力を賜り、活動はいまも継続させていただいております。誠に有難いことに存じます。

ご協力くださる方々のご期待に添えないかもしれないながら、まずは精一杯、街で出会う路上に暮らす方々や、孤独を感じておられる方々のもとを訪ね歩く活動を続けてまいります。

末筆となりましたが、これまで私たちを信じて15年間の活動を支えてくださった皆様に深く深く感謝を申し上げます。そして、これからも活動にて、苦難を抱えるお一人おひとりに、いのちを支えるのに必要な食やご縁を届け続け、その出会いの中に学び続け、悩み続け、歩き続けてまいります。どうか今後も変わらぬご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

○令和5年度 寄附 寺院・団体（順不同敬称略）

眞福寺（飯塚市）、常福寺（北九州市）、安楽院（北九州市）、三経寺（飯塚市）、慈恵院（飯塚市）、保福寺（いわき市）、寶隆寺（沢町）、西教寺（坂城町）、宝蓮寺（栃木市）、浄念寺（村上市）、正應寺（横浜市）、宝幢寺（七尾市）、妙慶院（広島市）、功德林寺（台東区）、大道寺（大阪市）、光明学園相模原高校、円宗寺（福岡市）、浄国寺（国東市）、回向院（墨田区）、成願寺（田村市）、九品寺（御所市）、来迎寺（香取市）、大王寺（春日部市）、法蔵寺（日光市）、光琳寺（宇都宮市）、福泉寺（甲賀市）、大念寺（大鋸町）、安養寺（大分市）、極楽寺（福山市）、天然寺（松崎町）、照光院（江東区）、妙長寺（河内長野市）、善教寺（川崎市）、大徳寺（仙台市）、長安寺（渋谷区）、生西寺（文京区）、一向寺（佐野市）、本誓寺（江東区）、阿彌陀寺（青森市）、浄土寺（港区）、圓通寺（江東区）、長伝寺（港区）、法眞寺（那須塩原市）、正円寺（沼田市）、實相寺（本庄市）、天長寺（島本町）、浄延寺（いわき市）、光明寺（三木市）、妙雲寺（益田市）、昌善寺（東近江市）、愚鈍院（仙台市）、専念寺（鶴岡市）、白雄寺（村山市）、大蔵寺（千葉市）、宝泉寺（大台町）、宗圓寺（台東区）、定泉寺（文京区）、法學寺（長野市）、慶岸寺（横浜市）、常行院（松戸市）、光源寺（文京区）、泉福寺（江戸川区）、正覚院（江東区）、大翁寺（境町）、北泉岳寺（砂川市）、来迎寺（八戸市）、引接寺（那珂市）、戒法寺（品川区）、最勝院（港区）、法城寺（碧南市）、得生寺（桜川市）、安樂寺（野洲市）、株式会社 アンカレッジ、來運寺（天童市）、心光寺（いわき市）、長昌寺（杵築市）、安養寺（いわき市）、雲龍寺（鹿沼市）、浄土院（山形市）、向谷寺（山形市）、龍華寺（鳥栖市）、西念寺（二本松市）、観音寺（横浜市）、公益財団法人 仏教伝道教会、真行院（台東区）、浄念寺（橘川市）、大長寺（鎌倉市）、マイトリーヘルプサービス、慈恩寺（仙台市）、地藏寺（有田市）、光明院（流山市）、一般財団法人太田慈光会、この他、個人様からのご寄付も数多く頂戴いたしました。ご支援下さったすべての方に深く感謝を申し上げます。

合掌

令和5年度決算報告

自 令和5年4月01日

至 令和6年3月31日

(単位:円)

収入の部

科目	項目	細目	本年度決算額	昨年度決算額	差異	備考
賛助金	会費		4,091,000	3,613,458	477,542	会員の賛助金
	助成金		480,440	0	480,440	(公財)浄土宗ともいき財団助成金(48万円)
	その他の寄付		400,000	1,754,393	▲ 1,354,393	(一財)太田慈光会(40万円)
	合計		4,971,440	5,367,851	▲ 396,411	
その他	雑収入		6	14	▲ 8	銀行口座利息
	繰越金		7,565,749	7,519,419	46,330	前年度繰越金
	合計		7,565,755	7,519,433	46,322	
総計			12,537,195	12,887,284	▲ 350,089	

支出の部

科目	項目	細目	本年度決算額	昨年度決算額	差異	備考
事業費	炊き出し費	食材	2,038,867	1,668,407	370,460	お弁当(1,734,569円)、アメ類(275,045円)、パウダー飲料
		医薬品	245,031	128,678	116,353	医薬品
		配布物	1,644,917	1,273,540	371,377	入浴券(658,000円)、寝袋(409,563円)、下着類(478,259円)、カイロ等
		消耗品等	57,115	93,834	▲ 36,719	ポリ袋、抗原検査キット等
		一時保護	7,270	12,800	▲ 5,530	一時保護した方への交通費・宿泊費・食費等
	合計		3,993,200	3,177,259	815,941	
	研修会費		0	33,411	▲ 33,411	
	活動推進費		267,383	268,692	▲ 1,309	ホームページ、おにぎり通信、出版支援金(15万円)等
	設備費		600,000	600,000	0	炊き出し会場賃貸費[(公財)浄土宗ともいき財団助成金から支出]、歯照院消耗品費
	提携事業費		457,909	149,940	307,969	折りの道助成金(10万円)、りんりんふえす
	交通費補助費		39,360	45,280	▲ 5,920	夜回り時の交通費
管理費	特定活動費		0	90,880	▲ 90,880	
	合計		5,357,852	4,365,462	992,390	
	人件費		638,052	525,310	112,742	事務員手当(月50,000円+交通費)(昨年度2ヶ月休職)
	事務費		82,150	84,480	▲ 2,330	事務用品、会計庶務費
	通信費		62,045	73,624	▲ 11,579	郵送代、電話代、ZOOM等
	会議費		29,300	0	29,300	理事会会議費等
予備費	雑費		30,438	31,165	▲ 727	手数料
	合計		841,985	714,579	127,406	
総計			6,199,837	5,321,535	878,302	

総収入	12,537,195
総支出	6,199,837
次年度繰越金	6,337,358

○令和5年度 浄米・物資寄付並びに活動協力 寺院・団体（順不同敬称略）

大林寺（稚内市）、照光寺（栃木市）、愛染寺（四街道市）、真勝院（葛飾区）、泉水寺（富津市）、正覚寺（古河市）、相模原如来光明会、大雲寺（江戸川区）、照光院（江東区）、宗圓寺（台東区）、定泉寺（文京区）、天然寺（木島平村）、往生寺（栗原市）、株式会社 小林石材工業、莊嚴寺（取手市）、大長寺（鎌倉市）、正観寺（横須賀市）、正定寺（古河市）、浄土寺（香取市）、工房茶助、株式会社 フジタ精米人、宝泉寺（大台町）、浄土寺（香取市）、マンダリン オリエンタル 東京、株式会社 大賀商店、エコライフカンパニー、有限会社 オフィスینگ、株式会社 フェアトレードカンパニー、この他、多くの個人様からのご寄付も頂戴いたしました。ご支援下さったすべての方々に深く感謝を申し上げます。

ひとさじの会代表 高瀬顕功拝